

地震お見舞い申し上げます

令和三年二月十三日 福島県沖地震

去る二月十三日午後十一時八分の震度六弱・強の福島県沖地震においては、夜中の地震ということもあり、大小の被害があり、心よりお見舞い申し上げます。

長秀院・仲興寺ともに本堂須弥壇の荘厳具は下に落ち、位牌等も被害を受けました。ただ地震の波の方向が東日本大震災とは違

うものであり、また揺れている時間が十年前と比較すると短かつたため、壊滅的というところ

ろまではいかずに済んだように思います。(揺れそのものはとても強かった)それでも墓地等は福島市全体で被害があり、補修が必要なものが多くありました。

全体的な被害は、ようやく見えてきましたが、家屋本体の問題や、石塀等の被害等が多く、たいへんであることは間違いあり

ません。

それでも頑張つて直すしかありません。何卒気落ちなく元氣を出してまいります。



新型コロナウイルス感染症について

昨年三月の「寺報」にて急ぎ各種行事の中止をお知らせしましたが、丸一年を経ても同じようなお知らせになっていることは本当に残念なことです。しかし、油断して前に戻そうとすると、感染症になってしまう危険性があります。

檀中の皆様とお話しさせて頂くことなるほどと思わせられることがたくさんあります。

Aさん「方丈さん、去年はない、みんな魂消て中止！中止つて言ったの無い。去年はウイルスが全国にいきわたっていねがったんだ。ただ魂消たんだ。んでも、今年はずう。日本

Aさん「ほだべ。オレら年寄りはずう。若い人は感染しても直つかもしれない。死ななくても後遺症で寝たり起きたりになつたら困つちまう。」

私「そうですね。わたしも今年六十五歳、おかげさまで高齢者の仲間入りです。高血圧の既往歴もあるしね。わたしも感染したらタダではすまないですね。」

Aさん「ほだない、方丈さんも気をつけてくなんしよ。オレらはない、子供のころ欠食児童で食い物がねエ時代は知つてんだ。あれから比べれば今は極楽なんだ。人間がいる限り、

覚悟をもって、明るく、生きる

誰しもこの一年で落ちこんでいます。ただ自粛は被害を最低限でおさえるための手段であるのです。マスクもソーシャルディスタンスも被害を最小限にするためのものであり、長期戦です。

今まで情報を共有してワクチンをつくることなどありませんでした。人類の危機と思つたからウイルスの情報を世界中で共有し、一年でワクチン接種までできたのでしよう。戦争ばかり、国同士の競争ばかりやつてきた人類にしては上出来です。

ワクチン接種は本当に大きな一歩となります。ただし、ワクチンは死を最小限に防ぎ重症化を減らす手段であり、感染を防ぐものではありません。全部を一年前に戻すことは不

中に抜かしたんだいまは、んだから、去年よりもつと気をつけねえとだめなんだよない。」
私「成程ねえ。そうですよね。確かに。」

必ずテックカイ危機であんのない。八十も真中になつとそう思うんだ。」
私「そうですね。生きている限り危機はありますねえ。その通りですね。」

可能です。今やれる最大限のことをやって「ウィズコロナ」でしよう。その覚悟(原意は、真実に目覚め、自ら悟ること)をもって、明るく、元気に生きることを目指すことです。

大本山永平寺

焼香師随伴拝登旅行の中止について

令和三年に一年延期となりました永平寺焼香師随伴拝登旅行は中止とさせていただきます。

不肖私渡辺祥文は令和元年に、令和二年四月二十四日の焼香師に推挙され永平寺より推挙状を賜り謹んでお受けし、檀中皆様に随伴の拝登旅行をお知らせしたところ、約五十名の方々の申し込みを頂きました。また、教区

焼香師拝登に御同道頂けることを只々嬉しく思っておりますが、このコロナ禍のため本年同日の延期となりました。

改めて募集させて頂くにせよ、このコロナ禍

内縁の御住職様方も随伴の申し出を十数名の方々に頂き、一世一代の

三月、四月の人の移動の多いときを経て、どのようになるのかまだわかりません。焼香師そのものが中止となる可能性もあり、また多くの方々を二泊三日の旅にお誘いすることはまさに「蛮勇」であろうと思います。よって旅行そのものを中止とさせていただきます。

私といたしましては本当に残念でなりません。ただこのようなコロナ禍に出会ってしまったことは仕方のないことなので、私と弟子秀憲の二人で拝登しつとめてまいります。宜しくお願い申し上げます。(住職祥文 拝記)

弟子秀憲和尚

四月より曹洞宗総合研究センター教化研修部門へ入所

お陰様で弟子秀憲は、昨年十一月二十三日帰山以降、長秀院・仲興寺の法務に専念させて頂いております。

帰山以降、十二月十日に、東京都港区芝にあり「曹洞宗宗務庁(曹洞宗の教団本部)」に併設されている曹洞宗総合研究センターを受験いたしました。

本人は大学で仏教の専門教育を受けておりま

んと仏教・禅を学ぶ機会が欲しいと思つていたようです。本山で行としての「仏道」は実践してまいりましたが、仏教・禅とは何かという専門的なことが足りないと思つたと言っています。ただ受験である以上受からなければいけませんので、帰山してからも受験並びに合格発表まで不安だったようですが、年末

に合格通知が来て、少々安心したようです。専攻は「教化研修部門」期間は三年、四月より東京暮しとなります。ただ本山修行時とは異なり、お盆・年末年始、春三月末等は帰山していただきますので、長秀院・仲興寺の法務も一部可能となります。

ただ、コロナ禍のため總持寺への瑞世拝登が未だ出来ず、春には「副住職辞令」の拜命をと思つていましたが、それもままなりません。四月から三年そのようなこととなりますので宜しくお願い致します。

三月・四月行事中止のお知らせ

三月十日現在、新型コロナウイルス感染症は感染拡大のま
ま一年が経過しました。

報道等で指摘されている通り集会・会議等を自粛いたします。三月～四月は「感染の波を防ぐ山場」として多くの集会・会議・イベント等を取りやめています。

長秀院・仲興寺も三月～四月の行事等全てを中止いたします。

各種総会等もありますが、昨年度にならない、全て中止といたします。

尚、五月以降は感染状況を見て今後どのようにするかを決定してまいります。



中止となる行事

長秀院

- 三月二十八日
 - ・ 大般若祈禱会・総供養
 - ・ 大聖不動明王尊例大祭
 - ・ 花まつり（釈尊降誕会）
 - ・ 護持会総会

仲興寺

- 三月十九日
 - ・ 春彼岸会供養
 - ・ 念仏講「春念仏供養」
 - ・ 護持会総会、念仏講総会

四月十七日

- ・ 貝沼出世観音例大祭

四月二十九日

- （旧三月十八日）

四月二十三日

- ・ 二十五日

四月二十三日

- ・ 清水町観音講中

大本山永平寺

- ・ 焼香師随伴参拝旅行

（住職と弟子のみ上山）

四月二十三日

- ・ 二十五日

大本山永平寺

焼香師随伴参拝旅行

（住職と弟子のみ上山）

梅花流御詠歌定例会

写経会等（三月・四月）

その他の中止行事

- 福島市仏教会主催
『花まつり』講演会

曹洞宗

- 五月二十五日～二十七日
全国梅花流奉詠大会
於・長野県

※長秀院・仲興寺行事については三月、四月の例大祭が多くありますので、そちらは予定当日に住職等で内献のおつとめをいたします。

※昨年引き続きこのような発表をすることはとても心苦しいのですが、高齢者の方々がおいでになる寺院は本場に危機意識をもって事にあたらねばなりませんので、日本中の人々が移動するこの二ヶ月間は「集まるイベント・会議・行事」は、中止とさせていただきます。

何卒ご賢察の上、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

二月十三日 福島県沖地震

地震・墓地被害についてのお願い

悪徳業者注意!!

本年二月十三日の福島県沖地震のため多くの方が被災されたものと存じます。心よりお見舞い申し上げます。

震度六弱（福島市内）ということでありましたが、急な激しい揺れにより墓石等はそれなりに被害がありました。特に古い

墓石等においては、棹石（中心石）が転倒・横倒し等の被害、また外柵の割れ等の被害がありました。

平成二十三年大震災当時は当日並びに余震（特に四月十一日）の震度六により大被害でしたが、今回はそれと同等の衝撃ではありません。

現在震度五以上による被害は天災によるものであり、誰の責

任ともなりません。よって被害についてはそれぞれの皆様で補修をお願いいたします。特に隣の墓所等へも「まきこみ被害」があつた場合はその方へ一報をお願いします。エチケットとして礼儀としてお願いいたします。

また「何事三度」などという福島のご格言もありますから、良質の接着剤のある現在ですの、指定の石材店へは当院からも連絡できますのでご一報ください。お繋ぎをいたします。

・石のかんの福島店
・茨木石材工業

長秀院住職 渡辺 祥文

長秀院檀信徒各位

御挨拶

令和二年十一月二十三日に帰山以来、師匠とともに長秀院、仲興寺のご法務をつとめさせて頂いております。今現在、至らぬことも多く一つ一つ指導を頂き、檀信徒の皆様にもお声をかけて頂き、本当にありがとうございます。

全てを直ちに学びきることはできませんが、一つ一つ覚えていきたいと考えております。

さて昨年十二月のことですが、曹洞宗の研究機関であります「曹洞宗総合研究センター 教化研修部門」を受験いたしましたところ、何とか合格の通知を頂きました。

令和三年四月より、東京港区芝の曹洞宗宗務庁に併設されている総合研究センターに入所させて頂きます。期間は三年間となります。一応東京にてのアパート暮らしとなります。四月からまた寺内を離れますが、本山修行とは違い、お盆・年末年始・三月末等は戻って法務をつとめますので、今後共何卒宜しくお願い申し上げます。

弟子 渡辺 秀憲 拝

檀信徒の皆様

コロナウイルスと行事

昨年三月から丸一年、集会・行事が行なえず「新しい生活様式」による流れとなっている。教区の役員会で早くもとに戻したいと思うと言うと若手住職たちから「元には戻らないと思います。」と言われ「ああ、その通りだ。」と思った。もう元に戻すことは確かに難しい。ウイルスの危険さ、経済の低迷、相反することに日本中が苦しんでいる。

ワクチン接種がある程度の光明となると思う。但し感染を防ぐものではなく、重篤化と死亡を防ぐものであり、今の生活様式を厳守しないと変異種等で、また危険な状態に戻るといふ。少なくともワクチン接種が全国民に及ばないと論外だともいふ。第三波が第四波や第五波となつてはどうかにもならない。寺院の集会や行事は高齢者が主である。油断なく「慎重すぎる」と言われるぐらいが丁度良いのだ。決して蛮勇となつてはならない。

この一年で疲弊し困っていることが多々ある。それでもウイルスの封じ込めが第一義である。ご協力をさらにお願いいたします。

(住職拝記)